

特別活動教育研究会

部 長 田 上 昭 典
研究主任 伊 藤 郁 弥
部 員 数 27名

1 研究主題

豊かな人間性を育む特別活動の創意工夫

2 はじめに

コロナ禍を経て活動の制限が緩和された中で、研究主題である豊かな人間性を育むために、各校の現状を踏まえながら、ねらいに沿う具体的な取り組みや、教育現場でのニーズの多様化に伴う時間短縮、最大限の効果を発揮する取り組みについて、協議をもとに追究している。

3 研究経過

- (1) 各校の特別活動の取り組みについて、毎月の研究会でディスカッションテーマを設け、小グループや全体で内容を共有し協議した。
- (2) ディスカッションテーマについては、実施計画立案前に設定し、今年度の各校の実践に活かせるような計画で活動を進めた。
- (3) コロナ禍を通して各校の精選・工夫された取り組みを広く共有することで市内小中学校の特別活動の充実につなげた。

4 研究の概要

- (1) 5月 <テーマ>運動会と体育祭、文化祭について

どの学校も、コロナにおける活動制限を設けることなく活動に取り組むことができた。特に中学校においては、昨年度に引き続き合唱の扱いについて各校の考えや取り組みを共有した。クラス合唱・学年合唱・体育祭におけるパフォーマンス等と、行事日程を鑑みてバランスを考えている現状である。

小学校では、中学校同様コロナによる制限が緩和される中で、学校規模に合わせてどこまで以前の形に戻すのか検討しながら実施された運動会であった。特に昨年度と比較すると、運動会の準備から運営まで児童に任せることで、児童が主体的に活動する場面を意図的にもたせた学校が増えた。次年度以降、縦割りによる発表や競技時間の拡大など、以前の形に戻していくかも検討事項である。

- (2) 7月 <テーマ>児童会、生徒会活動について

小学校であれば代表委員会、中学校であれば生徒議会の運営方法などについて話し合った。子どもたちで議会が進むよう、役割分担を徹底したり、司会進行の工夫をしたりしている学校が多かった。中学校生徒会選挙では、投票を紙ではなく forms やロイロノート等を活用したタブレットでの投票が主流になってきていると感じる。立ち会い演説会に関しては、コロナ等における制限を設ける学校はないが、オンラインによる演説会で進める学校が多い

状況である。小学校の児童会活動に関しては、各委員会の選出についての話し合いが中心に行われた。小規模の学校に関しては、今後単学級が増えることにより、同学級からリーダーを複数選出されることとなり、学級役員や各委員会の委員長の選出に対して不安の声があがっている。各学校の特色に合わせて、児童会運営の方法も変化させていく必要がある。

(3) 9月、10月 <テーマ>卒業生を送る会、感謝の会について

中学校では、入試日程が前倒しになっている関係で卒業生を送る会を実施する学校は減っている。その中でも、動画で卒業生に感謝の気持ちを伝えたり、委員会が卒業企画を考えたりと、実施ができない中でも各校が工夫を凝らして計画をしているようだった。小学校では、昨年度同様、全校児童が一斉に集まって実施する学校が多くあった。コロナ禍のオンラインでの実施という経験を経て、対面で感謝を伝え合うことの良さをより感じる事ができたという声がある一方で、多忙化解消の観点から、合唱や異学年との合同発表など、縮小できる点についても話し合われる学校が多いようである。

(4) 11月 <テーマ>運動会・体育祭、文化祭のふり返しについて

中学校では、昨年度合唱へ舵を切る学校が多かった。教員・生徒共に不慣れな状況であったため、課題も多く挙げられた。今年度は何らかの形で全ての学校が合唱に取り組み、これまでの反省点が活かされる形となった。どの学校からも生徒の充実感につながる良い時間となったという声があがった。

小学校では、コロナ禍同様、児童の実態に合わせた競技内容及び競技時間のバランスをとりながら、また熱中症や行事集中を分散させるためにも10月下旬から11月初旬にかけての開催が多いようである。

5 今後の課題

昨年度まで、「思い切って戻してみよう」が市内学校の動きであったように感じる。そこから出る課題・反省点は多岐にわたり、行事に対する考え方や進め方、日程の組み方においてまで話し合うことができた。そこから各校が課題意識をもって取り組むことで、完全に元の形に戻していくのではなく教員の働き方改革、行事の精選を図りながらも、特別活動の本来のねらいや意味を十分考えた上で各校の実態に合わせた活動にしていくことができたと感じている。

今後も他校の実践を共有する場を設定し、特別活動の本質に迫ることができるようになりたい。また、入試日程の変更、教員の働き方改革など、様々な視点から特別活動の今後が議論されている。行事や生徒会活動の精選は今後必ず必要となってくるが、「活動を通して子どもたちに身につけさせたい力は何か」という視点を教員は忘れてはいけないと感じた。学校ごとに受け継がれてきた伝統行事も、ねらいや意味をもう一度考えることで見えてくるものがあると思う。未来を生きる子どもたちに必要な力を身につけさせられるよう、これからも特別活動のあり方を考えていきたい。